

(国語科)

物語文を読み取るための基礎・基本の力を付ける指導法の工夫
—読解から読書活動へ—

大阪市立安立小学校 研究部

1. はじめに

社会が多様化し、激しく変化する中で、子どもたちには、心豊かに力強く生き抜き、未来を切り拓く力を備えさせることが大切だと言われている。そのためには、課題を意識し、課題解決のための学習の方法を見つけ、粘り強く自らの力で課題を解決する子どもを育てなければならない。

そこで、本校では、平成 24 年度より、あらゆる学習の基盤となる国語科学習の研究を進めてきた。研究 1 年目と 2 年目は、読解の楽しさを味わわせるために、第Ⅰ次（出会い・見通す）、第Ⅱ次（広げ・深める）、第Ⅲ次（生かす）という一連の学習過程を設定し、単元を貫く言語活動に取り組んだ。3 年目の昨年度は、説明文教材を通して国語科の基礎・基本の力の定着を図った。そして、本年度は、物語文の読み取り方の基礎・基本の定着を図るとともに、読書環境を充実させ、物語文の読解から読書活動へとつながる研究を進めていった。

2. 研究の内容

視点 1. 「目的をもった読解ができる単元構成」…実践例 1 年「サラダで元気」

・各単元で身に付けたい力を明確にし、それにふさわしい言語活動を設定した。読書経験を積むことができるように並行読書を取り入れ、第Ⅲ次の表現活動に生かすようにした。読み取りのための読み取りではなく、第Ⅲ次で表現活動をするという目的意識をもって第Ⅰ・Ⅱ次での読み取りを進めていった。

視点 2. 「一人学びの活用」…実践例 3 年「サーカスのライオン」

・一人学びは、一人学びガイドにそって各単元の第Ⅰ次で行う。全体で物語文を読み始める前にまず一人ひとりが物語文と出会い、その内容の大体をつかみ、自分の読みや考えをもつようにするものである。また、一人学びをすることは、物語文の読み取り方の定着を図ることにもつながる。この一人学びを全学年で活用していった。

視点3.「物語文の読解のための工夫」…実践例 4年「ごんぎつね」

・物語文を読み取るために全学年を通して音読指導に力を入れた。集中して音読することにより、文章理解が促進できたり、日本語による表現の美しさを体感できたりした。他にも、発達段階や物語文の特徴に応じて、ワークシート・学習コーナー・第Ⅲ次の表現活動の工夫を図った。

視点4.「読書環境の充実」

・第Ⅲ次の表現活動に向けて、公立図書館からの集団貸し出しを活用し、全学年で並行読書に取り組んだ。また、読書ノートの活用、音読発表会の開催、シャッフル読書などで読書意欲を喚起した。

3. 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- 読み取りのための読み取りではなく、第Ⅲ次での表現活動をするという目的のための読み取りができた。
- 一人学びガイドによる学習で物語文の読み取り方の定着が図れた。
- 一人学びにより、自分なりに物語の内容の大体がつかめた。また、全体での読みを深め、自分の読みを確かなものにすることができた。
- 物語文の読解の仕方を工夫することで中心人物の変容を読み取るという物語文の読み取り方ができてきた。
- 読書への意欲を喚起できた。

(2) 今後の課題

- 各学年で身に付けたい力を系統立てて考え、第Ⅲ次の表現活動が偏らないようにする。
- 一人学びに取り組みにくい児童への支援の仕方を工夫していく。
- 交流の仕方の工夫や、指導者がファシリテーターとしての力量をつけていく。
- 更なる読書環境の整備をしていく。